

AA

Docket #4509

USPS EXPRESS MAIL

EV 338 198 487 US

SEPTEMBER 04 2003

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-4248

(43) 公開日 平成7年(1995)1月20日

(51) Int. Cl.⁶

B 6 2 B 9/12

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 7149-3D

審査請求 未請求 請求項の数 1 OL (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願平5-32413

(22) 出願日 平成5年(1993)6月16日

(71) 出願人 390006231

アップリカ▲葛▼西株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1丁目13-13

(72) 考案者 北山 正

兵庫県多紀郡西紀町黒田432

(72) 考案者 大西 伊知朗

大阪市中央区島之内1丁目13番13号 アッ

プリカ▲葛▼西株式会社内

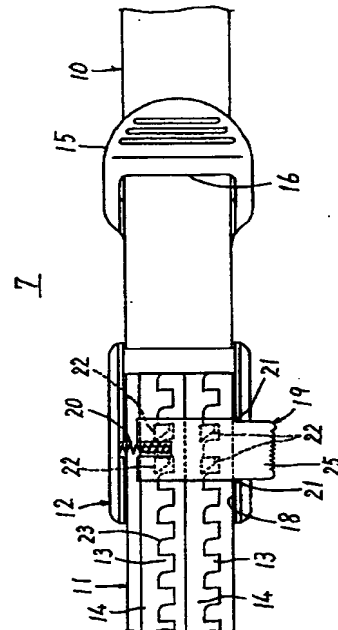
(74) 代理人 弁理士 深見 久郎 (外3名)

(54) 【考案の名称】 乳母車

(57) 【要約】

【構成】 乳母車の背もたれ部の背面側にベルトアセンブリ7を配置し、このベルトアセンブリ7の長さ調整により背もたれ部の傾斜角度を変更する。ベルトアセンブリ7は、第1のベルト10と第2のベルト11と第1のベルト10の端に連結されかつ第2のベルト11を通過させるバックル12とを備える。第2のベルト11の一方主面上には、複数の係合凹部13が形成される。バックル12には、第2のベルト12の幅方向に移動可能とされた操作部材19が保持され、操作部材19は、下方へ移動されるようばね20で付勢される。操作部材19には、係合凸部22が設けられ、これらが係合凹部13に係合したとき、ベルトアセンブリ7の長さが固定され、係合凹部13から離脱したとき、ベルトアセンブリ7の長さが変更可能とされる。

【効果】 ベルトアセンブリの調整された長さが係合凹部と係合凸部との係合により確実に維持されることが出来る。



USPS EXPRESS MAIL

EV 338 198 487 US

SEPTEMBER 04 2003

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 座部、および前記座部の後端部から上方へ立上がり、その傾斜角度が変更可能とされた背もたれ部を備える、座席と、

前記座席の各側にそれぞれ位置する第 1 および第 2 の固定部材と、

前記背もたれ部を支えるように背もたれ部の背面側に配置され、その各端部が前記第 1 および第 2 の固定部材にそれぞれ連結されるとともに、長さ調整が可能であり、この長さ調整により前記背もたれ部の傾斜角度を変更する、ベルトアセンブリと、

を備え、
前記ベルトアセンブリは、その一方端が前記第 1 の固定部材に連結される第 1 のベルトと、その一方端が前記第 2 の固定部材に連結される第 2 のベルトと、前記第 1 のベルトの他方端に連結されかつ前記第 2 のベルトを通してベルト通路を有するバックルとを備え、

前記第 2 のベルトの一方主面上には、複数の係合凹部を当該ベルトの長手方向に分布させる鋸歯状の段部が形成され、

前記バックルには、前記第 2 のベルトの前記一方主面側において前記ベルト通路を横切り、かつ前記第 2 のベルトの幅方向に移動可能とされた操作部材が保持されるとともに、前記操作部材を一方方向へ移動させるように付勢するばねが設けられ、

前記操作部材には、前記ばねの付勢により一方方向へ移動したとき、前記複数の係合凹部のいずれかに係合する係合凸部が設けられるとともに、その押圧により他方方向へ移動させる押圧操作部が前記バックルから突出する状態で形成されている、

乳母車。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 この考案の一実施例による乳母車 1 を後方から示した斜視図である。

【図 2】 図 1 に相当する図であって、背もたれ部 4 をより傾斜させた状態を示す。

【図 3】 図 1 に示した乳母車 1 に備えるベルトアセンブリ 7 を単独で示す正面図である。

【図 4】 図 3 に示したベルトアセンブリ 3 の一方端部を固定部材 5 に連結した状態を示す正面図である。

【図 5】 図 3 に示したベルトアセンブリ 7 に含まれる第 2 のベルト 11 の一部を拡大して示す正面図である。

【図 6】 図 5 の線 V I - V I に沿う断面図である。

【図 7】 図 5 の線 V I I - V I I に沿う断面図である。

【図 8】 図 3 に示したベルトアセンブリ 7 のバックル 12 が位置する部分を示す拡大正面図である。

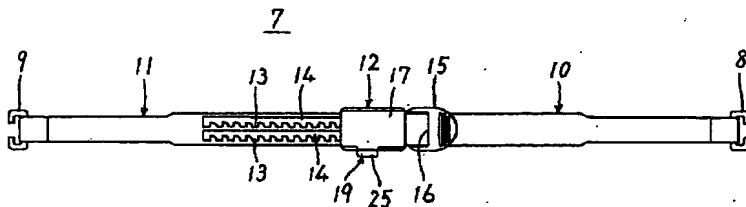
【図 9】 図 8 に示した操作部材 19 の背面図である。

【図 10】 図 8 に相当する図であって、操作部材 19 が上方へ移動した状態を示す。

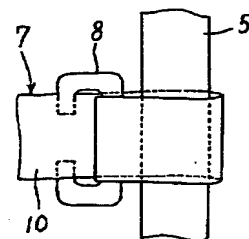
【符号の説明】

- 1 乳母車
- 2 座席
- 3 座部
- 4 背もたれ部
- 5 第 1 の固定部材
- 6 第 2 の固定部材
- 7 ベルトアセンブリ
- 10 第 1 のベルト
- 11 第 2 のベルト
- 12 バックル
- 13 係合凹部
- 14 段部
- 18 ベルト通路
- 19 操作部材
- 20 ばね
- 22 係合凸部
- 25 押圧操作部

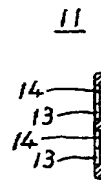
【図 3】



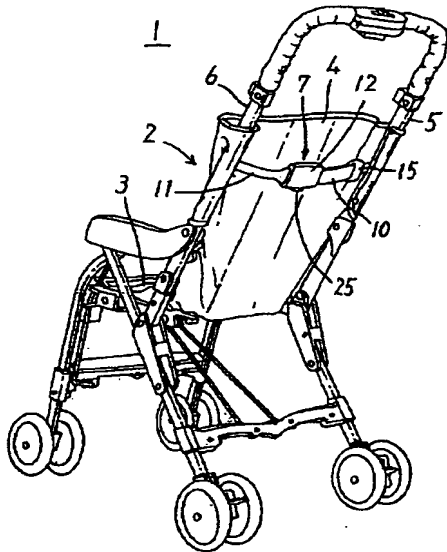
【図 4】



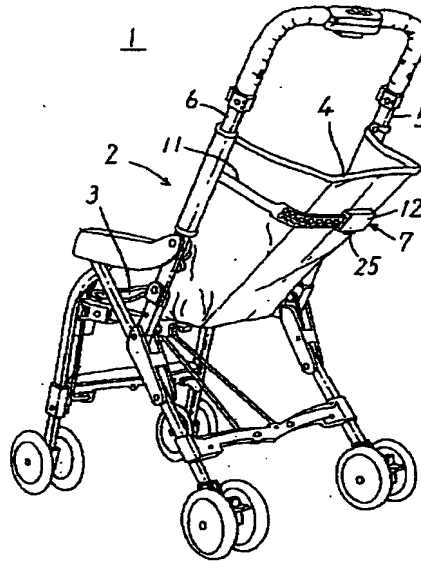
【図 7】



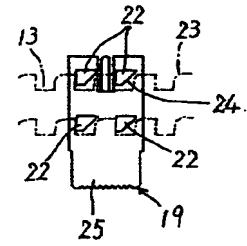
【図1】



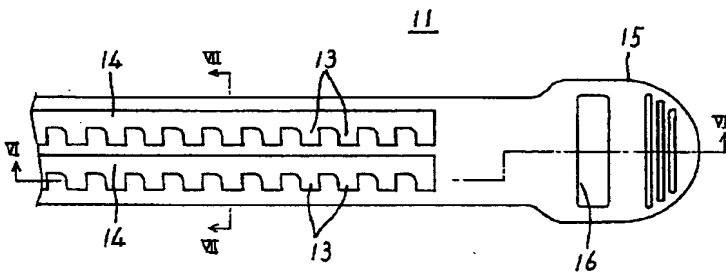
【図2】



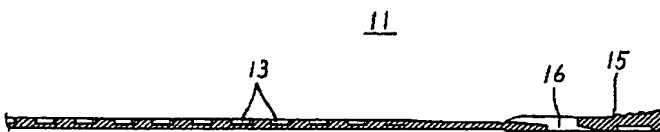
【図9】



【図5】



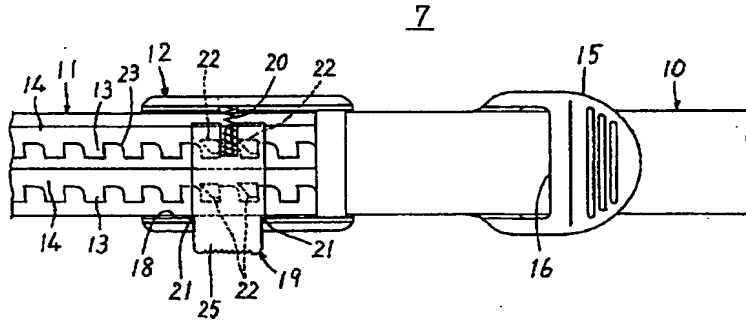
【図6】



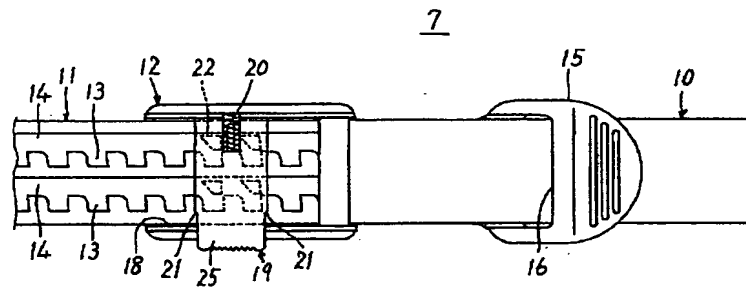
(4)

実開平 7-4248

【図 8】



【図 10】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は、乳母車に関するもので、特に、乳母車に備える座席の背もたれ部の傾斜角度を変更するための機構の改良に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

現在、座席を備える乳母車が主流となっている。このような乳母車において、多くの場合、背もたれ部の傾斜角度が変更可能とされている。軽量化が追求される乳母車にあつては、この背もたれ部の傾斜角度変更機構の構造をできるだけ簡略化することが望まれる。

【0003】

たとえば、本件実用新案登録出願人による実開平 3-8968 号公報には、簡単な構造で実現し得る背もたれ部の傾斜角度変更機構が記載されている。ここに記載された乳母車では、背もたれ部を支えるように背もたれ部の背面側にベルトアセンブリが配置され、このベルトアセンブリの長さ調整により、背もたれ部の傾斜角度が変更される。

【0004】

上述したベルトアセンブリの長さ調整は、次のように達成される。すなわち、ベルトアセンブリは、その一方端が一方の押棒に連結される第 1 のベルトと、その一方端が他方の押棒に連結される第 2 のベルトと、第 1 のベルトの他方端に連結されかつ第 2 のベルトを通過させるベルト通路を有するバックルとを備える。そして、バックルには、所定の回動位置にもたらされたときベルト通路に位置する第 2 のベルトに摩擦係合してバックルと第 2 のベルトとの間の相対移動を禁止するカム面を有するストッパが回動可能に取付けられる。

【0005】**【考案が解決しようとする課題】**

上述した背もたれ部の傾斜角度変更機構は、構造が簡単であり、操作も簡単であり、さらに、摩擦係合によってバックルのベルト通路内にある第 2 のベルトを

固定するものであるので、ベルトアセンブリの長さ調整を無段階で行なうことができ、そのため、背もたれ部の傾斜角度を無段階に調整することができる、というような利点を有する。

【0006】

しかしながら、上述した第2のベルトの固定のための摩擦係合は、無段階の調整を可能とする利点をもたらすものの、他方では、第2のベルトの固定の確実さに欠けるという問題を引起す。すなわち、摩擦係合する箇所における摩耗が進んだときには、所期のごとく第2のベルトの固定を確実に達成し得ない事態が生じてくる。

【0007】

それゆえに、この考案の目的は、ベルトアセンブリを用いた背もたれ部の傾斜角度変更機構において、その調整後の長さを確実に維持できるように改良された、乳母車を提供しようとすることである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

この考案にかかる乳母車は、まず、座部、および前記座部の後端部から上方へ立上がり、その傾斜角度が変更可能とされた背もたれ部を備える、座席と、前記座席の各側にそれぞれ位置する第1および第2の固定部材と、前記背もたれ部を支えるように背もたれ部の背面側に配置され、その各端部が前記第1および第2の固定部材にそれぞれ連結されるとともに、長さ調整が可能であり、この長さ調整により前記背もたれ部の傾斜角度を変更する、ベルトアセンブリとを備える。このベルトアセンブリは、その一方端が前記第1の固定部材に連結される第1のベルトと、その一方端が前記第2の固定部材に連結される第2のベルトと、前記第1のベルトの他方端に連結されかつ前記第2のベルトを通過させるベルト通路を有するバックルとを備える。そして、この考案は、上述した技術的課題を解決するため、特に次のような構成を備えていることを特徴とする。

【0009】

すなわち、前記第2のベルトの一方主面上には、複数個の係合凹部を当該ベルトの長手方向に分布させる鋸歯状の段部が形成される。他方、前記バックルには

、前記第2のベルトの前記一方主面側において前記ベルト通路を横切り、かつ前記第2のベルトの幅方向に移動可能とされた操作部材が保持されるとともに、前記操作部材を一方方向へ移動させるように付勢するばねが設けられる。そして、前記操作部材には、前記ばねの付勢により一方方向へ移動したとき、前記複数個の係合凹部のいずれかに係合する係合凸部が設けられるとともに、その押圧により他方方向へ移動させる押圧操作部が前記バックルから突出する状態で形成されている。

【0010】

【作用】

この考案において、ベルトアセンブリの調整された長さは、操作部材がばねの付勢により一方方向へ移動し、操作部材に設けられた係合凸部が第2のベルトに形成された複数個の係合凸部のいずれかに係合することによって維持される。

【0011】

また、操作部材に形成された押圧操作部を、ばねの弾性に抗して押圧することにより、係合凸部が係合凹部から離脱し、第2のベルトがバックルに対して自由に動き得る状態となる。この状態で、ベルトアセンブリの長さを調整することによって、背もたれ部の傾斜角度を調整する。この調整を終えたとき、押圧操作部を押圧する力を除けば、ばねの付勢により、操作部材は、係合凸部を所望の係合凹部に係合させるように移動する。

【0012】

【考案の効果】

このように、この考案によれば、調整されたベルトアセンブリの長さが、ばねにより付勢された操作部材に設けられる係合凸部が、第2のベルトに形成された係合凹部に係合することによって維持されるので、この長さを確実に維持することができる。そして、従来のように、摩擦係合によらないので、摩耗によって長さの維持が不確実になることはない。

【0013】

また、この考案によれば、ベルトアセンブリの長さ調整は、実質的に、操作部材の押圧操作部を押すか、この押す力を除去するか操作だけで済むので、長さ

調整を簡単に行なうことができる。

【0014】

また、この考案によれば、係合凹部が第2のベルトの一方主面上に形成された鋸歯状の段部によって与えられ、操作部材が、この第2のベルトの一方主面側においてベルト通路を横切るようにバックルに保持され、かつ第2のベルトの幅方向に移動可能とされるので、バックルの部分における厚みを比較的薄くすることができる。そのため、乳母車の背もたれ部の背面側において、バックルが、後方へ大きく突出することを防止できる。

【0015】

【実施例】

図1および図2は、この考案の一実施例による乳母車1を後方から示した斜視図である。

【0016】

乳母車1は、座席2を備え、座席2は、座部3、および座部3の後端部から上方へ立上がり、その傾斜角度が変更可能とされた背もたれ部4を備える。また、乳母車1は、座席2の各側にそれぞれ位置する第1および第2の固定部材5および6を備える。この実施例では、固定部材5および6は、それぞれ、押棒によって与えられている。押棒以外の同等の部材を、これら固定部材としてもよい。

【0017】

背もたれ部4は、布のような可撓性のあるシート材料から構成され、その幅方向中央部分にのみ、芯材（図示せず）が装着される。背もたれ部4の両側部分は、それぞれ、固定部材5および6上に巻付けられることにより、これら固定部材5および6に連結された状態とされる。図1には、背もたれ部4が比較的立上った状態が示されているが、この状態では、背もたれ部4の両側部分は、弛んだ状態となっている。他方、図2には、背もたれ部4が後方へ傾斜した状態が示されているが、この状態では、背もたれ部4の両側部分は、比較的張った状態となっている。

【0018】

図1および図2に示すように、背もたれ部4の傾斜角度を変更するため、ベル

トアセンブリ 7 が設けられる。ベルトアセンブリ 7 は、背もたれ部 4 を支えるように背もたれ部 4 の背面側に配置される。ベルトアセンブリ 7 は、単独で、図 3 に示されている。図 3 に示すように、ベルトアセンブリ 7 の各端部には、C 字状の留め具 8 および 9 がそれぞれ取付けられている。これら留め具 8 および 9 を用いて、ベルトアセンブリ 7 の各端部が固定部材 5 および 6 にそれぞれ連結される。図 4 において、一方の留め具 8 を用いてベルトアセンブリ 7 の一方端部を固定部材 5 に連結している状態が示されている。図 4 に示すように、ベルトアセンブリ 7 の一方端は、固定部材 5 に巻掛けされた後、留め具 8 内にベルトアセンブリ 7 の一部を受入れることによって、連結が達成される。

【0019】

ベルトアセンブリ 7 は、その長さ調整が可能であり、この長さ調整により背もたれ部 4 の傾斜角度が変更される。このような長さ調整を可能とする構成の詳細について以下に説明する。

【0020】

ベルトアセンブリ 7 は、その一方端に前述した留め具 8 を保持し、それによって第 1 の固定部材 5 に連結される第 1 のベルト 10 と、その一方端に前述した留め具 9 を保持し、これによって第 2 の固定部材 6 に連結される第 2 のベルト 11 と、第 1 のベルト 10 の他方端に連結されるバックル 12 とを備える。

【0021】

上述した第 2 のベルト 11 の一部が図 5 に示されている。図 6 は、図 5 の線 V I - V I に沿う断面図であり、図 7 は、図 5 の線 V I I - V I I に沿う断面図である。

【0022】

第 2 のベルト 11 の一方主面上には、複数個の係合凹部 13 をこのベルト 11 の長手方向に分布させる鋸歯状の段部 14 が形成される。この実施例では、2 個の段部 14 が形成され、それによって、複数個の係合凹部 13 が 2 列に配列される。

【0023】

第 2 のベルト 11 の、前述した留め具 9 が取付けられた側とは逆の端部には、

タングプレート15が設けられる。タングプレート15には、たとえば図3に示されるように、第1のベルト10を挿通させるスロット16が設けられている。

【0024】

図3に示したベルトアセンブリ7におけるバックル12付近の構成が拡大されて図8に示されている。図8では、バックル12は、そのカバー17（図3参照）が除去されて図示されている。また、図3と図8とでは、第1および第2のベルト10および11の相対的位置関係が異ならされている。

【0025】

主として図8を参照して、バックル12には、第2のベルト11を通過させるベルト通路18が形成される。このベルト通路18を通過した後、第2のベルト11は、図8において、第1のベルト10の裏側に位置し、タングプレート18の先端部のみを第1のベルト10の表側に位置させる。

【0026】

バックル12には、第2のベルト11の一方主面側、すなわち係合凹部13が形成された側においてベルト通路18を横切るように、操作部材19が保持される。この操作部材19は、第2のベルト11の幅方向に移動可能とされる。操作部材19のこの幅方向の移動をガイドするためのガイド部材は、図示しないが、カバー17側に設けられている。また、バックル12には、操作部材19を一方方向へ移動させるように付勢するばね20が設けられる。このばね20により、操作部材19は、図8において下方へ移動するように付勢される。なお、操作部材19の下方への移動の終端を規定するため、操作部材19には、肩部21が形成され、これら肩部21がバックル12の一部に係合するようにされる。

【0027】

操作部材19には、ばね20の付勢により下方へ移動したとき、複数の係合凹部13のいずれかに係合する係合凸部22が設けられる。図8において、係合凸部22が破線で示されているように、これら係合凸部22は、操作部材19の背面側に突出している。操作部材19の背面図が、図9に示されている。係合凸部22は、係合凹部13の各列ごとに2個設けられる。なお、係合凹部13および係合凸部22には、ベルトアセンブリ7を短くする方向への第2のベルト11

とバックル 12 との相対的移動をより円滑にするため、アール面 23 および傾斜面 24 がそれぞれ設けられることが好ましい。

【0028】

操作部材 19 の図 8 による下端部は、バックル 12 から突出していて、ここに押圧操作部 25 を与えている。この押圧操作部 25 を押圧した状態が、図 10 に示されている。図 10 に示すように、押圧操作部 25 が押圧されたとき、係合凸部 22 は係合凹部 13 から離脱する。これによって、第 2 のベルト 11 は、バックル 12 に対して自由に移動し得る状態となる。他方、押圧操作部 25 から、これを押圧する力を除去すれば、ばね 20 の弾性に従って、図 8 に示すように、操作部材 19 が下方へ移動し、係合凸部 22 が係合凹部 13 に係合する状態が得られる。この状態では、第 2 のベルト 11 のバックル 12 に対する移動が禁止され、ベルトアセンブリ 7 の長さが固定される。

【0029】

このように、この実施例による乳母車 1 によれば、たとえば図 1 に示す状態において、押圧操作部 25 を押圧しながらベルトアセンブリ 7 の長さを延ばすように調整した後、押圧操作部 25 への押圧を解除すれば、ベルトアセンブリ 7 の調整された長さに従って、背もたれ部 4 がより傾斜された状態とされる。他方、図 2 に示す状態において、バックル 12 を持ちながら押圧操作部 25 を押圧し、もう一方の手によってタングプレート 15 をバックル 12 から離すように引けば、ベルトアセンブリ 7 の長さが縮められ、このベルトアセンブリ 7 の調整された長さに応じて、背もたれ部 4 をより立上がった状態とすることができる。

【0030】

以上述べた実施例において、第 2 のベルト 11 の端部にタングプレート 15 が設けられていたため、第 2 のベルト 11 は、常に、第 1 のベルト 10 に沿う状態に維持されることができる。しかしながら、このような利点を望まないならば、第 2 のベルト 11 の端部は、バックル 12 から垂下がったままの状態とされてもよい。

【0031】

また、上述した実施例では、第 1 および第 2 のベルト 10 および 11 ならびに

バックル12が、樹脂の成型品で構成することができる。そのため、これらの部材の着色を自由に選ぶことができる。